

山形県置賜地域におけるクマハギ被害の現状と

被害対策資材の比較検討

山形県置賜総合支庁森林整備課 専門林業普及指導員 高橋 文

1 はじめに

置賜地域は、山形県の南部に位置し、3市5町で構成されています。この地域は、ナラ枯れ、マツ枯れ等の被害は減少傾向にありますが、クマハギ被害が増加傾向にあります(図1)。クマハギは、消雪直後の5月頃から8月頃までに発生すると言われています。クマは、広葉樹よりスギなどの針葉樹を好み、地際から1 m程度の高さまで剥皮します。クマハギ被害を受けた針葉樹は、枯死したり、一部が腐食し材価が下がったりするなど、深刻な林業被害が発生します。置賜地域では、国、県、市町村などの関係団体が協力して、平成19年度に置賜森林病虫害獣対策協議会を発足し、行政界を超えた森林病虫害獣被害への対策事業を実施しています。

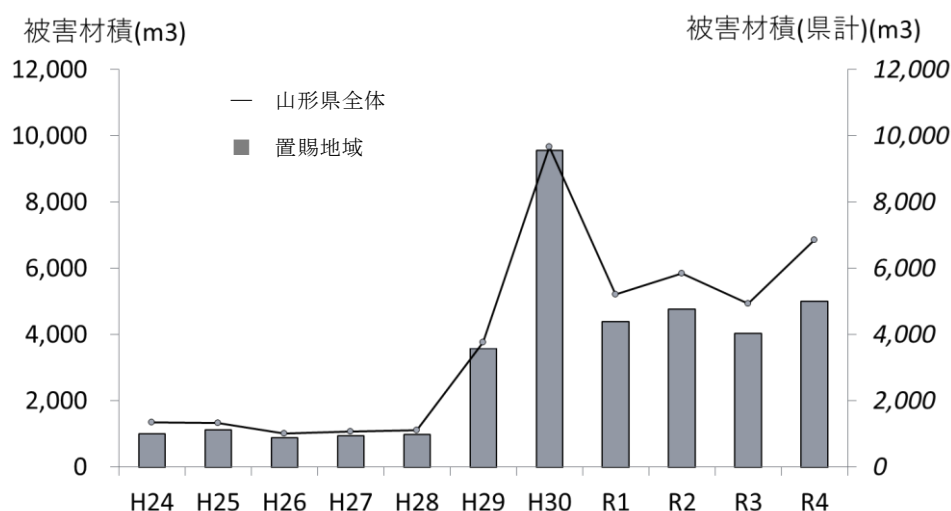


図1 山形県置賜地域のクマハギ被害量

2 取組・研究方法

協議会の取組みとして、平成19年度の発足当時からクマハギ被害対策の研修を実施しています。令和5年度は、置賜地域の中でもクマハギ被害の多い高畠町にて、6月に4種類の被害対策資材を設置する研修会を開催しました。資材は、樹幹に巻き付けるタイプ(リンロンテープ(写真1)、樹皮ガード(写真2)、ウィリー(写真3))と樹幹に塗布する忌避剤(カジランS・写真4)を設置しました。併せて、比較対象として、資材を設置した処理木の周辺で無処理のスギを選定しました。その後、令和5年11月と令和6年10月に資材の設置状況やクマハギ被害の有無について調査しました。



写真1 リンロンテープ



写真2 樹皮ガード



写真3 ウィリー



写真4 カジランS

3 結果

令和5年6月に設置した資材の状況は、令和5年11月の調査では、無処理木1本でクマハギ被害が確認されました。一方、クマハギ被害対策を施した処理木はどの資材でもクマハギ被害は確認されませんでした（図2）。なお、処理木にクマハギ被害は見られませんでした。樹皮ガードとウィリーについては、約20%の処理木で資材がはがれていました（図2、写真5・6）。原因は不明ですが、野生動物によるものと考えられます。令和6年10月の調査では、調査前に間伐が実施され、クマハギ被害の調査ができなかったのですが、積雪の影響で、樹皮ガードはほとんど、ウィリーが一部外れていました。

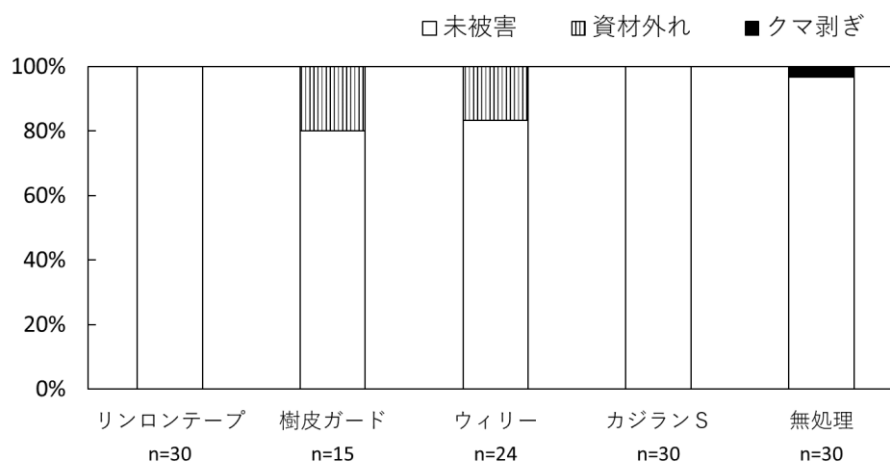


図2 クマハギ被害対策資材別の被害割合



写真5 ウィリー



写真6 樹皮ガード

4 考察

今回の調査では、被害対策資材を設置した場合、どの資材でもクマハギ被害の発生を抑えることができました。しかし、資材によって、野生動物等からはがされやすいものや積雪で外れやすいものもあるようでした。今後は、資材コスト等だけでなく、今回得られた結果も加味し、クマハギ被害対策を周知していきたいと思います。